



## 関西大学第一高等学校・第一中学校の創立100周年 に関わって

著者	大西 隆
雑誌名	関西大学年史紀要
巻	24
ページ	27-38
発行年	2015-03-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/8996">http://hdl.handle.net/10112/8996</a>

# 関西大学第一高等学校・第一中学校の

## 創立100周年に関わって

大西 隆

### 1. 平成25（2013）年11月2日

なみはやドームメインアリーナに、生徒たちが入場してきます。OB・OGのみなさんも、懐かしい先生方も、どことなく晴れやかな表情で入ってこられます。その様子を、ほんやりアリーナ内のステージ脇で眺めています。こんな情景、どこかで見たような……。

そんな時、ある情報が。

「理事長が交通渋滞に巻き込まれて、間に合わないかもしれない。」

想定していたとはいえ、放置することはできません。もし、間に合わなければ、挨拶は常務理事に依頼する、

ということになりました。結果的には、ぎりぎり間に合い、事なきを得ましたが、進行スタッフとしては冷や汗ものでした。

セレモニー中心の第一部に対して、第二部はアトラクション中心。100年の校史を彩った校歌3曲の披露は、OB・OGのみなさんに喜んでいただけたのではないかと自負しています。特に、関西甲種商業学校の校歌は約70年ぶりの復活となりました。

そして、本校卒業生のジャルジャル（福徳秀介さん・後藤淳平さん）共に一高第54期生）の登場です。ところが、ここで第二のハプニングが。予定では、司会（高橋大作さん・杉元砂八子さん）共に一高第53期生）のフリ



サプライズゲストのジャルジャル

で、アリーナ内の電光掲示板に、彼らの似顔絵が出て、それをきっかけに二人が登場……するはずだったので、電光掲示板は真っ黒なまま……。機転をきかせた司会者と二人のマナージャー（大谷重雄さん・一高第51期生）の好フォロワーで、二人が飛び出してきてくれましたが、生徒にはサプライズだったので、電光掲示板のテストができなかったことを悔やみました。

式典が終わり、祝賀会会場（ホテルニューオータニ大

阪）へ移動している間に、司会者と簡単な反省会。さらに、会場で簡単な打ち合わせを終え、祝賀会へ。

こちらは和やかな会となり、あちらこちらで出席者のみなさんが作られた談笑の輪がみられ、記念撮影のストロボが光っていました。

みなさんのおかげで、何とか終了した記念式典・同祝賀会ですが、この企画は、平成22（2010）年12月、当時の豊島光男校長によって招集されたある会に端を発するのです。

## 2. 準備委員会の発足

1913（大正2）年に創立されてから、2013年で100年になる。どのようにお祝いするのか、いつ、どこで？ そんな話し合いがおこなわれたのが前述の会。そこに集められたメンバーが、どうやって選ばれたのかは不明ですが、のちに実行委員会を組織する教員が集められたのは、偶然ではなかったでしょう。

ここでは、準備委員会を設置することと、その規程（章末掲載）を作ること。記念ロゴとマスコットを決めるた

めに、現役生徒を対象にコンテストを実施し、選ばれたデザインを用いてグッズを作ること。また、採用された作品を作った生徒を、記念式典で表彰すること、などを決めました。

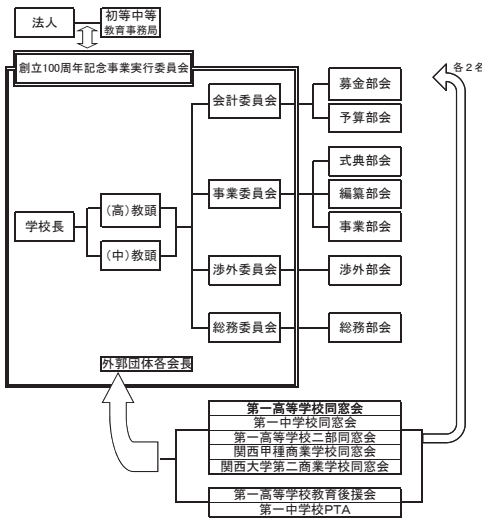
年が明けて、平成23（2011）年4月から、創立100周年記念事業準備委員会がスタート。一高・一中・関甲の各同窓会の代表者にも準備委員会に入っていたいただきました。ただし、一高二部同窓会と関西大学第二商業学校（二商を本校の前身と考えるかどうかは、議論のあるところですが）同窓会については、代表の方と連絡がとれず、規程には関甲と合わせて三校の代表にご参加いただくことにしました。また、一高教育後援会、一中PTAの会長にもご参加いただき、それぞれのお立場から、ご意見をいただくことになりました。

### 3. 実行委員会へ発展

準備委員会は、学期に一度のペースで開催されました。しかしながら、会全体に「まだ二年ある」といった雰囲気の流れ、前述のロゴ・マスケット募集のほかは、募金

計画と趣意書、『100周年記念誌』の企画ぐらいを検討しただけで、特に何かを決めるわけでもなく、回を重ねていきました。

平成24（2012）年に入り、教職員組織も動き出しました。全教職員を5つの部会（事業・式典・編纂・渉外・総務）に分け、準備委員会からの諮問について、検討を重ねていきます。事業部会は、全校生徒に配布する



創立100周年記念事業関係組織図

記念品の選定や記念事業としておこなわれる諸企画の検討を。式典部会は、記念式典および記念パーティー全般に関する企画を。編纂部会は、『創立100周年記念誌』の取材・執筆を。渉外部会は、記念事業のPRならびに募金計画の推進を。そして、総務部会はウェブページでのPRや記念式典当日の総務一式を担当するように、分担を決めました。

そんな中、記念式典の会場選定が大きな議論になりました。準備委員会原案では、校内開催を想定していました。卒業生の皆様に、ずいぶん様変わりした母校を訪れていただく機会を作り、記念事業で建設・改良された諸施設のお披露目も兼ねることができると。そして何より、経費の節減を考えた結果でした。しかしながら、校内で式典会場と言えば、体育館兼講堂である秀麗館しかなく、全校生徒が集うことは不可能です。ビデオカメラで撮影した映像を、各教室のテレビに映して……などと考えていたのですが、そうなれば学級担任はHR教室にいないればなりません。少ないスタッフが、さらに少なくなってしまうのです。そしてやはり、100年に一回の式典なので、

全校生徒を参列させたい。こういった教職員からの意見を受け、大阪府立門真スポーツセンター（なみはやドーム・メインアリーナ）をお借りすることになりました。

式典会場が決まると、次は記念パーティー会場を決めなければなりません。11月の第一土曜日なので、結婚式も入ってきそうです。検討の結果、なみはやドームからのアクセス（大阪市営地下鉄長堀鶴見緑地線利用）を考えると、ホテルニューオータニ大阪が適当だと判断し、予約を入れました。

準備委員会は発展的に解消し、実行委員会に。次第に、ムードが盛り上がってくるはずだったので……。

#### 4. 当該年度を迎えて

平成25（2013）年が明け、新学期を迎えた4月。いよいよ、あと半年という時期になっても、具体的な全体像が描けていないまま。各部会からは、実行委員会は何をしているのか、といったお叱りも聞こえてくるようになりました。そして、ついにある部会から、「誰が全体像をつかんでいるのか。誰に聞けば返事をもらえるのか

がわからない。式典とパーティーを取り仕切る、総合プロデューサー兼総合ディレクターを決めて欲しい。」という声が挙がりました。

このもつともな指摘を受け、総務委員長の大西が式典とパーティーの「オモテ面」を総括し、事業委員長の城がそれぞれの「ウラ面」を総括することになりました。「オモテ面」とは進行面を指し、「ウラ面」とは設営や撤収などを指します。

実際に総括するとなると、次々におしごとが浮かび上がってきます。まず、台本と進行図、設営図の作成。このために、なみはやドームやホテルニューオータニ大阪の下見と打ち合わせは欠かせません。司会者やゲスト、登壇者の依頼。学校から持ち込むものと、現地でお借りするものもリストも必要でしょう。そして、ご来賓への招待状の送付。これも、スペースの関係で、登壇していただく方、アリーナ席にお座りいただく方、2階スタンドの貴賓席にご案内する方に分けなければなりません。お返事をいただければ、名簿を作成し、名札を作成するためのデータベースとして活用する、このあたりは、高中

幼事務室の力を借りました。

さらに、記念グッズの企画。これはロゴやマスコットを決めた時点で動けるはずだったのですが、誰も手を付かなかったといった感じになったもので、教職員の手が足りず、急遽、教育後援会とPTAの役員のみなさんのお力をお借りすることとなりました。日曜日のお昼に電話を入れ、その週の土曜日に集まっていたかどうかという強行日程をお願いしたにもかかわらず、さまざまなアイ



デアや企画を生み出していただき、その後、生徒・保護者へのグッズの引き渡しまでご担当いただきました。また、一高同窓会の会報『いちこう』にPR用ページを設けていただいたことも、OB・OGの皆様にご記念グッズの存在を知っていただく絶好の機会となりました。旧制服のキーホルダーの人気は、このページによるものだと思います。実際のグッズの製作には、株式会社関大パンセの増子氏、財前氏のお力添えをいただきました。大西・城と一中・一高で机を並べていた増子氏の協力は大変心強く、無理なお願いにも応えていただいたこと、この場を借りて御礼申し上げます。

文章にすると、これぐらいで終わってしまいますが、連日打ち合わせやら下見やらで、戻ってきてはパソコンと格闘し、何が本業かわからないほどの毎日が続きました。

この間、各部会は順調に作業を進めてくれました。事業部会は、全校生徒に配布する記念品としてタオルセットを企画。式典部会は、下見にも同行し、式典会場や搬入経路、来賓や保護者・生徒の動線などを確認して



記念グッズのチラシ

いきます。編集部会は、OB・OG諸氏を取材するため、日本全国を飛び回り、渉外部会は募金目標金額に向かって、各種団体へのアプローチを手がけていきます。そして、総務部会は、来賓の名札など消耗品や備品の確保、式典・パーティーの式次第の企画・印刷発注、当日の受付計画などを検討していきました。

このように、ようやく動き出した実行委員会ですが、あつという間に半年が過ぎ去っていきました。



創立100周年記念式典と祝賀会の式次第

## 5. ラスト一週間

10月の最終週は、高中共に成績懇談会がおこなわれます。中間考査の成績を集計し、保護者にお返しすると共に、各部署からの連絡や成績の講評をお伝えしなければなりません。創立100周年といえども、中間考査は例年通り実施されていますから、当然、この時期に成績懇談会もおこなわれます。つまり、式典やパーティーの準備と成績処理が同時進行することになったわけです。

発注していた商品が、次々に納品されてきます。全校生徒に配布する記念品は、一中・一高給品部から寄贈された保温マグも含めると、かなりの量になりました。10月31日（配布前夜）は図書室を臨時閉室して保管場所とし、机の上にはうず高く積みまれました。皆さんにお買い上げいただいた記念グッズは、親和館中教室を受け渡し場所とし、教育後援会・PTAの役員の方々の皆様によって、クラスごとにセットされていきます。

学校からパーティー会場に持ち込む備品は宅配便で、式典会場に持ち込む備品はトラックで、それぞれ送らな



ければなりません。

そして、前日、なみはやドームに集合したのは教職員と生徒有志。あらかじめ設営図面を渡していたとはいえ、生徒たちは初めての会場とは思えないほど手際よく、設営がおこなわれていきます。瞬く間に椅子が並べられ、ステージが組み上げられていきます。改めて、若い力の凄まじさと、創立100周年に参加できる喜びを、生徒たちから感じた時間でした。

## 6. 改めて当日

迎えた11月2日土曜日、午前8時30分に会場内へ入った私たちは、あとは流れにまかせて、臨機応変の対応を心がけようと考えていました。前述のようなハプニングがあったものの、厳粛且つ盛大な雰囲気の一部、華やかで楽しい雰囲気の一部となり、生徒たちにも印象深い記念式典となったことと思います。

当日の受付は、一高同窓会役員の皆様、教育後援会ならびにPTAの役員の皆様にお願ひしました。来場されるタイミングによっては、大混乱するかもという懸念



池内理事長の挨拶

も抱きましたが、打ち合わせらしい打ち合わせもしないまま、手際よく作業を進めていただきました。

また、式典終了後、生徒有志による撤収作業がおこなわれました。私は、司会者と一緒にパーティー会場へ移動していたため、直接見たわけではありませんが、担当の教職員と協力し、予定時間よりずいぶん早く作業が終わったそうです。

パーティーの司会は、引き続き高橋大作氏と杉元砂八子氏にお願いしたのですが、打ち合わせは移動のタクシー内と会場控室での数分のみ。しかしそこはプロ。素人の作った台本と、短時間の打ち合わせにも関わらず、こちらの指示通りに進行してくださったことも、ここで付け加えておきます。

## 7. 最後に

当日、生徒が入場し終わり、六千余の座席のうち約三分の二が埋まったスタンドをアリーナから見上げた時、何となくどこかで見えたような、いわゆるD&A VUを感じました。その時は余裕がなく、思い出すに至りませんでした。

だが、今思えば、平成10（1998）年

の春、場所は甲子園球場のアルプスタンド前方からの眺め……校史に残るビッグイベント2つに関わらせていただいた幸せを、今改めて噛みしめています。

創立100周年記念事業として、高中ブルガリニユールされ、屋内の温水プールとなりました。正門の門柱は、一高同窓会からのご寄付により、立派なものに生まれ変わりました。



スタンドの様子



## 関西大学第一高等学校・関西大学第一中学校 創立100周年記念事業実行委員会規程

制定 平成23年11月19日

### (設置)

第1条 関西大学第一高等学校・関西大学第一中学校創立100周年記念事業・記念行事の実行計画を策定し、かつ、実施の円滑な推進を図るため、関西大学第一高等学校・関西大学第一中学校創立100周年記念事業実行委員会（以下「実行委員会」という。）を設置する。

### (実行委員会の構成)

第2条 実行委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 学校長
  - (2) 第一高等学校教頭・第一中学校教頭
  - (3) 第一高等学校同窓会会長・第一中学校同窓会会長
  - (4) 第一高等学校二部同窓会会長、関西甲種商業学校同窓会会長、関西大学第二商業学校同窓会会長のうちから1名
  - (5) 第一高等学校教育後援会会長・第一中学校PTA会長
  - (6) 初等中等教育事務局長・同次長
  - (7) 高中幼事務長
  - (8) 学校長の指名する第一高等学校・第一中学校教諭
- ② 実行委員会委員は、学校長が委嘱する。
- ③ 職務上委嘱された委員が、その職を退いた時は、委嘱を解いたものとする。
- ④ 第1項第4号の委員は、当該各号の筆頭に掲げる者が推薦する。

### (実行委員会の運営)

第3条 実行委員会に、実行委員長及び若干名の実行副委員長を置く。

- ② 実行委員長は学校長とし、実行副委員長は実行委員会委員のうちから実行委員長が指名する。
- ③ 実行委員長は、実行委員会を招集し、議長となる。
- ④ 実行委員会は、必要に応じて専門部会幹事の出席を求めることができる。
- ⑤ その他実行委員会の運営について必要な事項は、実行委員会において定める。

### (専門部会の設置)

第4条 記念事業・記念行事の具体的な実行計画案を企画、立案し、又は策定された実行計画を実施するため、実行委員会のもとに、必要に応じて専門部会を置く。

- ② 専門部会の設置は、実行委員会において決める。

(専門部会の構成)

第5条 専門部会は、実行委員会において選出された次の者をもって構成する。

- (1) 第一高等学校・第一中学校教諭のうちから若干名
  - (2) 高中幼事務室職員のうちから若干名
  - (3) 第一高等学校同窓会会員・第一中学校同窓会会員のうちから若干名
  - (4) 第一高等学校二部同窓会会員、関西甲種商業学校同窓会会員、関西大学第二商業学校同窓会会員のうちから若干名
  - (5) 第一高等学校教育後援会会員・第一中学校PTA会員のうちから若干名
- ② 専門部会員は、学校長が委嘱する。
- ③ 職務上委嘱された専門部会員が、その職を退いた時は、委嘱を解いたものとする。

(専門部会の運営)

第6条 専門部会に部会長及び副部会長を置き、それぞれ実行委員会において選出された専門部会員をもって充てる。

- ② その他専門部会の運営について必要な事項は、当該専門部会において定める。

(事務の所管)

第7条 実行委員会に関する事務は、高中幼事務室において所管する。

- ② 専門部会に関する事務は、当該専門部会長および副部会長が行う。

附 則

- 1 この規程は、平成23年11月19日から施行する。
- 2 この規程は、所定の記念事業等が終了し、その残務処理が完了した日に効力を失う。